



## 2021年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2021年7月14日

上場会社名 アララ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4015 URL <https://www.arara.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩井 陽介  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長 (氏名) 井上 浩毅 TEL (03) 5414-3611  
 四半期報告書提出予定日 2021年7月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年8月期第3四半期の業績（2020年9月1日～2021年5月31日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年8月期第3四半期	1,160	29.1	303	207.5	295	182.7	251	175.3
2020年8月期第3四半期	898	—	98	—	104	—	91	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年8月期第3四半期	41.21	37.32
2020年8月期第3四半期	16.05	—

- (注) 1. 2019年8月期第3四半期について、四半期財務諸表を作成していないため、2020年8月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
2. 当社は、2020年11月19日に東京証券取引所マザーズに上場したため、2021年8月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から2021年8月期第3四半期会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
3. 当社は、2020年9月2日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。このため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年8月期第3四半期	1,642	1,332	81.1
2020年8月期	1,054	420	39.9

(参考) 自己資本 2021年8月期第3四半期 1,332百万円 2020年8月期 420百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年8月期	—	0.00	—	—	—
2021年8月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年8月期の業績予想（2020年9月1日～2021年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,472	22.6	303	121.3	290	104.0	240	66.7	39.10

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

業績予想の修正については、本日（2021年7月14日）公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 2021年8月期（予想）の「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2020年9月11日付で行使の新株予約権59,000株、2020年11月18日に払込の公募増資381,100株、2020年11月20日から2021年5月31日までに行使した新株予約権18,200株及び2020年12月22日に払込のオーバーアロットメントによる第三者割当増資118,900株を含めて算定しております。

※ 注記事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P.7「2. 四半期財務諸表及び主な注記（3）四半期財務諸表に関する注記事項（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年8月期3Q	6,262,500株	2020年8月期	5,685,300株
② 期末自己株式数	2021年8月期3Q	30株	2020年8月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年8月期3Q	6,096,719株	2020年8月期3Q	5,685,300株

（注）当社は、2020年9月2日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。このため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「期末発行済株式数（自己株式を含む）」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数（四半期累計）」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にあります。国内でのワクチン接種が開始されたことに伴い、経済活動も徐々に回復していくことが期待されている一方、先進7カ国と中露間の緊張感の高まりを受け、世界経済に及ぼす影響が懸念されます。

当社の属する情報サービス業界においても、新型コロナウイルス感染症の影響による社会全体の新たな生活行動やビジネス形態へのシフトにより、企業のテレワーク環境の整備需要に加え、営業・販売活動のデジタル化への取り組みや、それらを支援する新たなネットワークサービスの開発などの増加がみられました。このような環境において、当社では、引き続き顧客との年間契約に基づくリカーリングサービスの提供による収益増加を最重要戦略とし、積極的な顧客獲得対策及び解約防止対策を実施いたしました。また、当第3四半期累計期間における新型コロナウイルス感染症による業績への影響につきましては、WEBミーティング等を積極的に活用することで営業活動の停滞を極力防ぐ対策等を講じたことにより、全般的には軽微なものとなっております。

その結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,160,384千円（前年同期比29.1%増）、営業利益は303,034千円（前年同期比207.5%増）、経常利益は295,358千円（前年同期比182.7%増）、四半期純利益は251,254千円（前年同期比175.3%増）となりました。

主なセグメントの概況は以下のとおりであります。

なお、第1四半期会計期間から、各報告セグメントの業績をよりの確に把握することを目的に業績管理手法を変更したことに伴い、本社費用の各セグメントに対する配賦方法の変更を行っております。前年同期のセグメント情報については、変更後の算定方法により作成したものを使用しております。

#### a. キャッシュレスサービス事業

「キャッシュレスサービス事業」については、新型コロナウイルス感染症拡大の長期化により、消費者の購買動向が感染症拡大前の水準に戻りつつあることから、成長は若干鈍化しております。しかしながら、スーパーマーケット等数十社からの引き合いがあるなど、キャッシュレスサービスの潜在需要は引き続き堅調であります。当第3四半期会計期間末における顧客数は184社（前事業年度末比9.5%増）、累計エンドユーザー数は12,462千人（前事業年度末比19.3%増）となり、当第3四半期会計期間における当社が取扱うハウス電子マネー決済額は56,350百万円（前年同会計期間は60,913百万円）と順調に推移いたしました。

その結果、同サービスの当第3四半期累計期間の売上高は655,806千円（前年同期比76.9%増）、セグメント利益は372,152千円（前年同期比268.2%増）となりました。

#### b. メッセージングサービス事業

「メッセージングサービス事業」については、既存代理店の販売促進、既存顧客関連会社へのアプローチ、セミナー参加企業への再提案等、様々な営業施策を実施した結果、期初の解約減少分を補填できる水準に戻りつつあります。当第3四半期累計期間の月次平均解約率は0.8%（前事業年度は0.9%）、当第3四半期会計期間末における3年以上継続取引社数は164社（前事業年度末は153社）となりました。

その結果、同サービスの当第3四半期累計期間の売上高は382,535千円（前年同期比3.2%減）、セグメント利益は168,080千円（前年同期比17.1%減）となりました。

#### c. データセキュリティサービス事業

「データセキュリティサービス事業」については、新規パートナー企業の開拓や既存顧客の契約継続施策等に注力しました。当第3四半期累計期間の月次平均解約率は0.7%（前事業年度は1.0%）となりました。

その結果、同サービスの当第3四半期累計期間の売上高は87,230千円（前年同期比15.8%減）、セグメント利益は28,765千円（前年同期比28.5%減）となりました。

#### d. その他の事業（ARサービス）

「その他の事業」のARサービスでは、米国Facebook社が展開する「Spark AR」向けのコンテンツ制作ビジネスの営業活動を行いました。オリンピック関連案件の中止等により、若干苦戦を強いられている状況です。

その結果、同サービスの当第3四半期累計期間の売上高は34,811千円（前年同期比18.8%増）、セグメント損失は13,590千円（前年同期は17,077千円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は1,642,693千円となり、前事業年度末に比べ587,800千円増加いたしました。

このうち、流動資産は1,354,448千円(前事業年度末から510,085千円の増加)となりました。これは主として、現金及び預金が532,732千円、前払費用が1,921千円それぞれ増加し、売掛金が23,721千円、仕掛品が692千円それぞれ減少したことによるものです。

固定資産は288,244千円(前事業年度末から77,715千円の増加)となりました。これは主として、工具、器具及び備品(純額)が2,244千円、ソフトウェアが75,948千円それぞれ増加し、建物(純額)が1,500千円、長期貸付金が15,400千円、貸倒引当金が14,995千円それぞれ減少したことによるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は310,538千円となり、前事業年度末に比べ323,733千円減少いたしました。これは主として、未払法人税等が30,426千円増加し、短期借入金50,000千円、預り金295,277千円それぞれ減少したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は1,332,155千円となり、前事業年度末から911,533千円増加いたしました。これは公募による増資等により資本金と資本剰余金がそれぞれ330,164千円増加し、四半期純利益の計上により利益剰余金が251,254千円増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年8月期の業績予想につきましては、最近の業績の動向等を踏まえ、2020年11月19日公表の「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」で公表いたしました、2021年8月期(2020年9月1日～2021年8月31日)の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、2021年7月14日に公表しました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	700,347	1,233,079
売掛金	133,445	109,723
仕掛品	692	—
前払費用	9,718	11,639
その他	3,652	246
貸倒引当金	△3,493	△241
流動資産合計	844,362	1,354,448
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	15,987	14,486
工具、器具及び備品（純額）	6,117	8,362
有形固定資産合計	22,105	22,849
無形固定資産		
ソフトウェア	102,623	178,571
その他	0	0
無形固定資産合計	102,623	178,571
投資その他の資産		
投資有価証券	325	325
長期貸付金	15,400	—
敷金	31,110	30,622
保険積立金	7,614	9,064
繰延税金資産	46,507	46,507
その他	479	944
貸倒引当金	△15,635	△639
投資その他の資産合計	85,801	86,824
固定資産合計	210,529	288,244
資産合計	1,054,892	1,642,693

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	21,479	25,029
短期借入金	100,000	50,000
未払金	20,210	16,602
未払費用	23,304	15,459
未払法人税等	16,026	46,453
未払消費税等	32,876	32,463
前受金	118,478	117,910
預り金	301,895	6,618
流動負債合計	634,271	310,538
負債合計	634,271	310,538
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	331,500	661,664
資本剰余金	331,692	661,857
利益剰余金	△242,571	8,683
自己株式	—	△49
株主資本合計	420,621	1,332,155
純資産合計	420,621	1,332,155
負債純資産合計	1,054,892	1,642,693

（2）四半期損益計算書  
（第3四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期累計期間 （自 2019年9月1日 至 2020年5月31日）	当第3四半期累計期間 （自 2020年9月1日 至 2021年5月31日）
売上高	898,816	1,160,384
売上原価	329,184	329,221
売上総利益	569,631	831,162
販売費及び一般管理費	471,073	528,127
営業利益	98,558	303,034
営業外収益		
受取利息	58	16
助成金収入	—	6,445
貸貸収入	2,160	—
貸倒引当金戻入額	4,500	3,400
その他	300	185
営業外収益合計	7,018	10,047
営業外費用		
支払利息	829	985
上場関連費用	—	16,662
その他	283	76
営業外費用合計	1,112	17,724
経常利益	104,464	295,358
特別利益		
投資有価証券売却益	678	—
特別利益合計	678	—
税引前四半期純利益	105,142	295,358
法人税等	13,884	44,103
四半期純利益	91,258	251,254

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年11月19日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。株式上場にあたり、2020年11月18日を払込期日とする有償一般募集（ブックビルディング方式による募集）による新株式381,100株（発行価格1,400円、引受価額1,288円、資本金組入額644円）の発行により、資本金及び資本準備金はそれぞれ245,428千円増加しております。

さらに、2020年12月22日を払込期日とする有償第三者割当増資（オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資）による新株式118,900株（割当価格1,288円、資本金組入額644円）の発行により、資本金及び資本準備金はそれぞれ76,571千円増加しております。

この結果、新株予約権の行使による増加分を含めて、当第3四半期会計期間末において資本金及び資本準備金はそれぞれ661,664千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間（自 2019年9月1日 至 2020年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期損 益計算書 計上額 (注) 2
	キャッシュ レスサービ ス事業	メッセー ジサービ ス事業	データセキ ュリティサ ービス事業	その他の事 業 (ARサービ ス)	計		
売上高							
外部顧客への売上 高	370,740	395,220	103,559	29,296	898,816	—	898,816
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—	—	—
計	370,740	395,220	103,559	29,296	898,816	—	898,816
セグメント利益又 は損失 (△)	101,081	202,803	40,215	△17,077	327,023	△228,464	98,558

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△228,464千円は、各報告セグメントに含まれない全社費用が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期累計期間（自 2020年9月1日 至 2021年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期損 益計算書 計上額 (注) 2
	キャッシュ レスサービ ス事業	メッセー ジングサー ビス事業	データセ キュリティ サービス事 業	その他の事 業 (ARサービ ス)	計		
売上高							
外部顧客への売上 高	655,806	382,535	87,230	34,811	1,160,384	—	1,160,384
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—	—	—
計	655,806	382,535	87,230	34,811	1,160,384	—	1,160,384
セグメント利益又 は損失 (△)	372,152	168,080	28,765	△13,590	555,408	△252,373	303,034

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△252,373千円は、各報告セグメントに含まれない全社費用が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更)

第1四半期会計期間から、各報告セグメントの業績をよりの確に把握することを目的に業績管理手法を変更したことに伴い、本社費用の各セグメントに対する配賦方法の変更を行っております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期累計期間のセグメント利益が、「キャッシュレスサービス事業」で75,712千円、「メッセージングサービス事業」で100,949千円、「データセキュリティサービス事業」で50,474千円それぞれ増加し、セグメント損失が「その他の事業 (ARサービス)」で25,237千円減少しております。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報については、当該変更を反映させるための組替えを行っております。